

福祉サービス第三者評価 評価基準（サービス編：乳児院版）

評価の着眼点（解説）

- ① 各設問の該当項目に レ 印を付けます。その他に施設独自で行なっている取り組みや工夫している点があれば、自由記述欄に記入します。
- ② 各項目の☆印は重点項目を示します。
- ③ ☆印は2点、その他の項目は1点として計算し、最高8点とします。
- ④ 評価は、次の4段階です。 8点～6点 ⇒ A 5点～4点 ⇒ B 3点～2点 ⇒ C 1点以下 ⇒ D
- ⑤ 評価時点のサービス提供状況で、設問に該当する利用者がいない場合は、いると仮定した場合、どのような対応をするかという視点で回答します。
- ⑥ 各設問で用いている用語の説明や、設問の主旨を理解いただき、自己評価に臨んでください。
なお、次の用語については、特に記載のない限り、次のようにご理解ください。
家族等 ……家族等、身元引受人などをさします。

広島県福祉サービス第三者評価推進委員会

1. 施設の環境整備

(1) 快適な空間

No.	小項目	設問	評価の着眼点
1	快適性への配慮①	<p>施設の共用スペースは、快適な場所となっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 施設は、安全面に配慮された構造となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 室温・湿度、採光、換気、音は、常に調整された環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 清掃が行われ、清潔が保たれている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 出入り口、食堂、保育室、遊戯室、運動場等、活動スペースは適度な広さである</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 季節の移り変わりが感じられるような環境となるよう工夫している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者が過ごす環境は、生活が安定し、活動が豊かになるように人的・物的環境等を計画的に構成し、工夫して整えることが大切です。</p> <p>具体的には、施設、屋外運動場の広さ、遊具・用具の素材、室内の採光、換気、保温、清潔等の環境保健のほか、危険防止や居室の家庭的な親しみ、くつろぎの場といった点への配慮が求められます。平成19(2007)年に提唱された「子どもの生活安心プロジェクト」の中には、「子どもの施設の安全全国一斉総点検」が盛り込まれており、月2回の遊具点検が推奨されています。</p> <p>この設問は、利用者が心地よく過ごすことのできる環境整備についての取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
2	快適性への配慮②	<p>居室は、利用者にとって安全・安心な場所となっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 居室は、安全面に配慮された構造で適度な広さとなっている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 室温・湿度、採光、換気は、居室で調整することが可能な環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 居室は、子どもが安心して過ごせる環境となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 一人で過ごしたいときに、一人になれる場所がある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母子の不安や悩みに対して、いつでも職員が相談に応じる体制がある</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者の成長発達と権利擁護の視点から、生活の場である建物や設備のあり方を改めて見直す必要があるといわれています。具体的には、性別や年齢別に応じた設備、課題を抱えて施設を利用する利用者が精神的に落ち着いて過ごすことのできる場所の確保や職員体制などが挙げられます。</p> <p>この設問は、利用者の立場から見て、居室が安全性や快適性に配慮したものになっているかどうか、施設の工夫や取り組みを評価するものです。</p>

(2)安心な生活

No.	小項目	設問	評価の着眼点
3	防災対策	<p>風水害や地震等の災害が発生した場合、速やかに対応できる体制が整っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 防災対応マニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 災害発生時の外部連絡方法が確立している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 災害発生時の外部連絡方法は、職員・関係者に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 災害発生を想定した避難訓練を計画的に実施している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 災害発生に備え、必要物品の備蓄を行っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>事故や災害が発生した場合には、その種類によってさまざまな対応が求められます。そのため、万が一に備えて対応フローチャートや緊急連絡先一覧の作成、救急処置に関する知識と実践方法、関係者との連絡方法や連絡網等について、マニュアル化しておくことが必要となります。</p> <p>また、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることも求められます。例えば「ヒヤリ・ハット事例」を蓄積し、その施設で起きやすい事故の傾向を把握し、これらを未然に防ぐための検討を行うことも有効です。</p> <p>この設問は、施設での事故や災害時の対策についての取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
4	不審者対策	<p>不審者の侵入等に対応できる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 不審者の侵入防止策(出入り口の施錠、通報システム等)が講じられている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 不審者の侵入等における対応マニュアル(施設内、施設外)が整備されている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 不審者対応マニュアルは、職員に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 不審者の情報が、関係機関や近隣住民等から得られるネットワークがある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 警察や警備会社等との連携のもとで、マニュアルに基づく職員研修が行われている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>不審者が侵入した場合、及び行事等で外出した場合に不審者に遭遇した場合には、利用者の安全を確保すると同時に警察や警備会社への通報等、さまざまな対策が求められることとなります。そのため、万が一に備えて対応フローチャートや緊急連絡先の一覧の作成、緊急処置に関する知識と実践方法、関係者との連絡方法やマニュアル化しておくことが必要となります。</p> <p>また、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることも求められます。</p> <p>この設問は、施設での不審者対策についての取り組みを評価するものです。</p>

2. 日常生活の中での支援

(1)計画に基づいた自立支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
5	自立支援計画の策定	<p>自立支援計画の策定は適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 自立支援計画策定に関して、統一した様式が整備されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 自立支援計画策定の際のアセスメント手順が定められている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ アセスメントによって発見された課題が明確になっている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 支援目標は、アセスメントから導かれたものになっている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自立支援計画策定の経過は、定められた様式に記録され、適切に保管されている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>児童福祉施設最低基準には、「利用者一人ひとりに自立支援計画を策定し、利用者やその家庭の状況等を勘案して、自立を支援するための計画を策定」することが明記されています。計画策定のためには、利用者をよく観察したり、面接を行うことで利用者と共にニーズを探し出し、情報収集の過程を経て、ニーズを明確にしていくことが大切です。ニーズを明らかにする手法としてのアセスメントにおいては、利用者の生活歴や環境を理解し、要望や主訴を踏まえて総合的な視点から具体的なニーズを探ることが重要となります。</p> <p>この設問は、施設で行われているアセスメントについて、様式の有無、手順の制定、課題発見、目標設定、記録の面から、どのような取り組みが行われているかを評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
6	自立支援計画の評価・見直し	<p>自立支援計画の評価・見直しは、適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 計画の見直し期間を定め、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子の状況が変化した場合は、見直し時期でなくても随時見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 計画の見直しの際には、支援目標等に対する評価を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 計画変更の手順を定め、計画変更の必要が生じた場合には、その手順に従って計画を変更している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 見直し・評価・変更の内容は、統一した様式に記録され、適切に保管されている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>自立支援計画は固定的なものではなく、新たなニーズの発生、サービス内容の質的低下、利用者満足度等の観点から見直しをする必要があります。見直し(モニタリング)において、ニーズの変化等を把握し、計画を修正する必要があるときは、再アセスメントを行います。計画策定時に検討を加えたニーズや見落としたニーズがなかったかということも視野に入れながら行うことも必要です。</p> <p>この設問は、施設利用開始時に策定した自立支援計画の見直し、変更について、見直しの期間、評価の実施、変更の手順、記録について評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
7	本人の自己決定・家族等の参加	<p>自立支援計画は、利用者・家族・関係機関の意向や意見を取り入れたものとなっていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 自立支援計画は、母子の日頃の様子を観察したり、直接、意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 自立支援計画は、家族等関係者の意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 必要に応じて、専門職の意見を聞く機会を設け、その内容を反映させて策定している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 外部の機関との連携が必要な場合は、連携方法・内容を確認し、その内容を自立支援計画に盛り込んでいる</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自立支援計画は、利用者、専門職、関係者等の意向や連携方法が整合性を持つように調整して策定している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>自立支援計画の策定には、利用者の心身の状況や生活歴、好みなどの情報や、家族を含めた希望を聞き取り、反映させることが求められます。また、計画策定後も、日々の支援や利用者の言動、表情などから分かるさまざまな情報を加え「その人らしい成長」「その人らしい暮らし」について、職員間で検討しながら、計画策定や見直しにつなげることが大切となります。</p> <p>この設問は、自立支援計画の策定が施設の判断だけで進められるのではなく、利用者本人及び家族等の意見の反映、必要に応じて専門職の意見の徴集、異なる意見の調整を経て行われているかを評価するものです。</p>

(2)生活習慣の獲得

No.	小項目	設問	評価の着眼点
8	食事	<p>利用者が食事を楽しむことができるような配慮や工夫を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 食事時間は、子どもの基本的な生活習慣の確立につながるよう設定している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 食事は、適温提供を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 発達段階や、体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 無理なく楽しみながら、食事マナーや食習慣の習得ができるように工夫している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 子どもの事情に応じて、あらかじめ決められた食事時間以外の時間でもおいしく食べられるよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>食事は、利用者の発育・発達を促すものであると同時に、利用者が生涯にわたって豊かな食生活を営み、心身ともに健康な生活を送ることができるようになるためにも重要なものです。平成22(2010)年にまとめられた「児童福祉施設における食事の提供ガイド」(厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課)には、食事を計画的に提供することの意義や食育の重要性、他職種連携による支援の必要性などが挙げられています。</p> <p>この設問は、施設で提供される食事は利用者の状況に応じて提供されているか、また、計画的提供されているかを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
9	睡眠	<p>子どもが十分な睡眠をとれるように工夫していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 子どもが安心して心地よい眠りにつけるよう、静かな環境を作っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 寝具等は、清潔を保っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 職員は、睡眠が子どもの成長に与える影響について十分理解している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 年齢や発達状態に応じて、一人で眠ることができるよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 睡眠時の状況を定期的に観察している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>睡眠は、年齢の低い子どもにとっては心身の発達に重要な影響を与えるものです。安定した睡眠を取れるようにするために、利用者一人ひとりの発達・心理に配慮した職員の対応、安全に対する取り組みが施設には求められます。また、環境面での不備は、皮膚疾患や呼吸器系の疾病など、直接健康を害する原因となり、心身の発達を妨げる要因となります。</p> <p>この設問は、利用者の快適な睡眠を確保するために行われている工夫や取り組みを評価します。なお、ベッド、寝具、照明、換気、室内の温度・湿度等は、訪問した際に確認することが可能と考えられます。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
10	排泄	<p>子ども一人ひとりの発達状況や個性に合わせた排泄ができるようにしていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 排泄は、個々の幼児の発達段階やリズムに合わせて誘導している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 発達段階に応じて、排泄への興味を持てるよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ おむつ交換の時に、言葉かけしたり身体をさするなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ おむつが濡れていない時は便器に座らせるなど、自分から便器で排泄する意欲が持てるよう働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 排泄援助に関するマニュアルを作成し、職員の援助水準を一定に保っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>排泄の自立は、幼児の成長過程のなかで重要なポイントとなります。一人ひとりの幼児の発達状況や個性に合わせて適切な排泄の援助を行うことは、幼児の自信や自分への信頼感を育てることになります。また、幼児の発達過程についての正しい知識に基づいた援助方法が求められます。</p> <p>この設問は、排泄援助に関する具体的な援助方法について、マニュアルや記録による確認とともに、ヒヤリングによっても確認することが重要です。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
11	健康管理	<p>利用者の発達段階に応じて、健康管理できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員は、母親等の状態や子どもの成長・発達を理解し、医療や健康に関して学習したり、知識を得たりしている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子の平常の健康状態や発育・発達状態を把握している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 洗面、洗髪、歯磨き、爪きり、髭剃り等身だしなみについて、発達に応じて自力で行えるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母親等の状態や子どもの発達段階に応じて、危険な物・場所・行為から身を守るための指導を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 健康上特別な配慮を必要とする母子については、医療機関と連携して日ごろから注意を払っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>身体の健康は、健全な発達の基本です。利用者の成長・発達の状況に応じて、利用者自らが身体の健康に関して自分で管理できるようになることは、自立につながります。また、健康は、危険な物、場所、行為から身を守ることを利用者の状況に応じて支援することによっても保持することができるといえます。幅広く捉えると、交通ルールを身に付けることも危険から身を守るといえます。</p> <p>さらに、医療的な支援が必要な利用者に対しては、専門的な医療機関と連携することも求められます。</p> <p>この設問は、利用者の状態に応じて、利用者自身による健康管理ができるようにするための施設の工夫や取り組みを評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
12	身体保清	<p>利用者の発達段階に応じて、身体保清の習慣が身につけられるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 沐浴や入浴は乳幼児の年齢に適した方法で行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 無理なく入浴を楽しみながら、乳幼児の心の安定や成長にも配慮している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 原則として、毎日入浴が行われている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 入浴時間は、乳幼児の生活に合わせて柔軟性をもっている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 乳幼児の尊厳や羞恥心に配慮している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>入浴や沐浴によって清潔を保つことは、健康維持の基本であり、快適な生活の基本です。また、入浴(沐浴)時の職員とのふれあいや楽しく心地よい体験は、基本的な信頼関係を育み、精神的安定、成長につながるといえます。</p> <p>この設問は、設備面での安全が保障されていることを前提として、入浴が利用者の心の安定や成長にも配慮して行われているか、施設の工夫や取り組みについて評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
13	衣習慣	<p>利用者が衣習慣を獲得し、衣服を通じて適切に自己表現できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 毎日取り替える下着や、汚れた時に着替えることができる衣類が十分確保されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 発達段階に応じて、衣服の着脱ができるよう援助している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択ができるよう管理している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 衣類は、個別に用意されている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>衣類管理の基本は清潔であることです。さらに気候や場面の变化、心身の発達に応じて、利用者が快適な状態でいられるような具体的な援助が求められます。また、成長の過程の中で、利用者が衣習慣を獲得し、場面に応じた衣服の選択が行えるよう支援することも施設には求められます。</p> <p>この設問は、利用者の衣類管理が適切に行われているか、または利用者自身が衣類管理できるよう支援しているかについて評価を行うものです。</p>

(3)社会性の獲得

No.	小項目	設問	評価の着眼点
14	自他の権利の尊重	<p>利用者が人格の尊厳を理解し、自他の権利を尊重し、共生できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 母子が、自分自身の人格や権利が十分大切にされているという実感や経験を積むように働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子が、人格の尊厳を理解し、他人の権利を尊重できるように働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 日常的に、同年齢・異年齢の人たちとの交流の機会を設け、円滑な人間関係を育てる環境を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子の思想・信教の自由を保障している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 母親等の宗教的活動によって、その子どもの権利が損なわれないよう配慮している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者が人格の尊厳を理解し、他人の権利を尊重できるようになるためには、自分自身の人格や権利が十分大切にされているという実感や経験を積んでいくことが基本となります。</p> <p>そのためには、職員と利用者が個別に触れ合う時間を確保して他人に対する基本的な信頼感を醸成することが必要です。また、さまざまな年齢、文化、生活習慣を持つ人と触れ合う機会を提供し、人権に対する配慮や互いを尊重する心を育てる働きかけも必要となります。特に、子どもは多くの意識や行動様式を大人から学ぶため、職員だけでなく保護者等にも他者を尊重する手本となっただけなく働きかけることも必要です。</p> <p>この設問は、利用者が自分自身や他者の権利を尊重することができるよう、施設での取り組みを問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
15	自主性・自律性の発揮	<p>施設での生活の中で、利用者が自主性・自律性を発揮できるよう支援していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 行事の参加・不参加など、母子からの意見や意向はできる限り尊重している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 母子が意見を表明できるよう、職員との信頼関係を築いている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 能力や状況によって意思を表明しにくい母子に対して、職員が代弁者としての役割を果たしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子から寄せられた希望がすぐに応えることが難しい事柄でも、職員会議等で話し合い、対応を検討している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 希望に応えられない事柄については、その理由をその都度説明し、理解を求めている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>利用者は、遊びや生活を通して年齢に応じた発達をとげていきます。発達の中には自主性・自律性・自己表現力の獲得なども含まれますが、これらは施設が安心して自己表現できる場となっていることが重要です。</p> <p>このため、職員には利用者が自主性・自律性が獲得できるような環境整備や関わり方が求められます。この設問は、利用者の自主性・自律性発揮のために施設が行っている取り組みについて評価するものです。</p> <p>なお、この設問でいう「自主性・自律性」は、休日の過ごし方、金銭の自己管理も含んだものとして評価します。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
16	社会的ルールの獲得	<p>利用者が協調性を養い、社会的ルールや態度を身につけるよう働きかけていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員は、普段から振る舞いや態度で模範を示している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 施設での生活、社会生活の規範、約束事を利用者が理解できるような言葉で説明し、指導している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 施設での生活を通して、他者への心づかいや配慮する心が育まれるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 地域行事、施設行事を活用して、社会のルールを習得する機会を提供している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ ルールを守ることで達成感、満足感が味わえるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、利用者の発達に関する十分な理解と、利用者一人ひとりの特性に応じて、生きる喜びや困難な状況に対処する能力を育てることを基本とする支援が必要です。</p> <p>職員には、利用者が成長・自立するため、一人ひとりの状態に合わせて支援する姿勢や環境があるかどうか、利用者の気持ちを大切にしながら利用者自身が取り組もうとする気持ちを育む工夫が行われているか、という視点が求められます。</p> <p>この設問は、協調性や社会的ルールや態度の獲得について施設での具体的な取り組みについて評価するものです。</p> <p>なお、この設問でいう「社会生活の規範」「約束事」「ルール」とは、礼節、他人を重んじる気持ち、適切なコミュニケーションなど、一般的には、「マナー」と呼ばれるものをさします。</p>

(4)その他の支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
17	メンタルヘルス	<p>心理的ケアが必要な利用者に対して、心理的な支援を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 心理的な支援を必要とする母子については、自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 心理支援プログラムは個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が行われている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 必要に応じて、専門職から直接支援を受ける体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 日常生活の場面においても、心理的援助が行えるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 心理的なケアが必要な母子に接する職員には研修やスーパービジョンを行い、支援の質を維持している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>発達上の課題を抱える利用者や被虐待経験を持つ利用者など、心理的なケアが必要な利用者が増加する傾向にあります。</p> <p>これまで施設で蓄積されてきた育児等の知識と支援ノウハウだけでは対応が難しいケースについては、必要に応じて専門職からの助言を受けながら支援することが必要となります。</p> <p>この設問は、心理的なケアが必要な利用者への支援について、施設の具体的な取り組みについて問うものです。</p>

3. 安心な生活

(1)虐待の防止

No.	小項目	設問	評価の着眼点
18	虐待の防止	<p>利用者に対する暴力、虐待防止と早期発見に取り組んでいますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 職員が虐待を行わないことを、母子や家族等に周知している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 虐待にあたる事例を示したり、通報先、通報方法を知らせるなど、母子や家族等からも通報できる環境を整備している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 虐待を防止する観点から、密室・死角等の建物構造の点検と改善を定期的に行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 母子が自分自身を守るための知識、具体的方法について学ぶ機会を設けている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 虐待防止の観点から、職員体制（配置や担当の見直し等）を検討している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、体罰はもとより、言葉による暴力や人格的辱め、無視・脅迫等の心理的虐待、セクシャルハラスメント等、不適切な関わりは許されるものではありません。</p> <p>このため、日ごろから職員研修や具体的な体制整備を通じて暴力・虐待防止と早期発見の仕組みを整えておく必要があります。</p> <p>この設問は、利用者に対する暴力・虐待の防止と早期発見の仕組みを施設がどのように整備しているかについて評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
19	虐待の禁止	<p>利用者に対して、虐待を行わないことを徹底していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 「就業規則」等の規程に虐待の禁止を明記している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 職員研修などにおいて、具体的な例を示すなどして虐待禁止を周知徹底している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 万が一、虐待が起きた場合は事実関係等を把握・整理した後に全職員に伝えている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 虐待が起きやすい状況や場面について、研修等を行い、職員は援助技術を習得している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 自傷行為や他者への加害行為を阻止するための方法について検討し、適切に対応している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設においては、いかなる場合においても虐待は許されるものではありません。</p> <p>職員には、研修等を通じて虐待を行わないことへの意識を高めることのほか、日ごろから虐待の起こりやすい状況や場面について検証すると共に、虐待に至らないような援助技術を習得させる必要があります。</p> <p>また、虐待があった場合を想定し、原因や程度、事実確認の方法や就業規則等の規定を整備し、厳正に処分を行う仕組みを整える必要があります。</p> <p>この設問は、利用者に対する虐待を行わないための施設の取り組みについて評価するものです。</p>

(2)問題行動への対応

No.	小項目	設問	評価の着眼点
20	問題を持つ子どもへの対応	<p>子どもが暴力、不適応行動など、問題行動をとった場合、適切に対応していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激、人的・物的環境との因果関係を分析している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 周囲の子どもの安全を図る配慮が行われている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 職員に対して研修を行い、問題行動に対して適切な援助技術を習得できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 問題行動に対して、子どもの心身を傷つけずに対応するための体制を整えている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 対応後の子どもの変化を観察し、振り返りを行うなど、次の支援に活かす仕組みがある</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>子どもが問題行動をとった場合、その原因や本人が訴えたいことを理解し検討することが大切です。</p> <p>また、子どもの特性については、職員間で情報共有し、子どもが問題行動をとった場合には適切な対応ができるようにしておく必要があります。必要に応じて児童相談所と情報交換を行ったり、専門医療機関から助言が得られる環境を整えることも考えられます。</p> <p>この設問は、子どもが暴力や不適応行動などの問題行動をとった場合の施設の対応や日常的な取り組みについて問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
21	児童間暴力の防止	<p>施設内の児童間の暴力、いじめ、差別などが生じないような措置を講じていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 日ごろから他人に対する配慮の気もちや接し方を職員が模範となって示している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 問題の発生予防のために、建物内外の構造、職員配置や勤務体制について点検、検討している</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は、丁寧に観察し、個別援助を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 児童間暴力やいじめが発覚した場合は、職員集団として適切な対応ができるような体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 児童相談所の協力を要請する基準を設けている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設の中で子ども同士の暴力やいじめ、差別などがないよう、日ごろから他人に対する配慮の気持ちや接し方、人権に対する意識を施設全体で徹底することは重要なことです。</p> <p>子ども同士のいじめや暴力が発覚した場合の対応については、職員間の連携の方法や施設長の役割など、あらかじめ体制を整えておく必要があります。</p> <p>この設問は、施設の中で子ども同士のいじめや暴力、差別の防止と万が一発生した場合の対策について施設の取り組みを評価するものです。</p>

(3)衛生管理

No.	小項目	設問	評価の着眼点
22	食中毒・感染症対策	<p>食中毒や感染症に対する予防及び発症後の対策は、適切に行われていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 食中毒に関するマニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 感染症（予防・対応）に関するマニュアルがあり、定期的に見直しを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 食中毒、感染症が発生した場合に、関係機関に連絡する体制があり、その方法が職員に周知されている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 食中毒・感染症に適切に対応できるよう、職員研修を実施している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 食中毒・感染症について、乳幼児に必要な情報を分かりやすく説明し、必要な対応ができるよう支援している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>食中毒や感染症が発生した場合は、医療機関との連携のほか、保健所や所轄官庁等への報告など、さまざまな対応が求められます。</p> <p>そのため、万が一に備えて対応フローチャートや連絡先一覧の作成、救急処置に関する知識と実践方法について、マニュアル化しておく必要があります。</p> <p>これらの対策は、予防を含めた内容であることが求められます。さらに、マニュアルに沿った対応が確実に行われるよう、日ごろから職員に対してマニュアルの周知やそのための研修が継続的に実施されていることが求められます。</p> <p>この設問は、施設で食中毒や感染症が発生した場合の対策、及びこれらを予防するための対策についての取り組みを評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
23	食材管理・調理方法等	<p>食材管理や調理方法等について、食の安全を確保できる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 食材は、安全で良質なものを入手するよう心がけている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 調理は、適切な温度で行い、揚げ物等は中心温度の測定を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 食事は、適温提供を心がけている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 通常とは異なる時間に食事を摂る子どもがいる場合、適切な場所に保管し、安全を確保している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 原材料・提供した食事の両方を既定の温度で2週間保存している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>食品事故を防止するためには、施設の自主管理の徹底が大変重要となります。自主管理を徹底させるには、施設ごとに衛生管理体制を整備し、施設、食品衛生管理者だけでなく、調理業務に携わる職員一人ひとりが衛生的で安全な食品を提供する義務と責任を背負っていることを自覚することが大切です。</p> <p>なお、給食業務を業者委託している場合は、業者がこれらの項目を心がけるような内容で業務委託しているか、という観点で回答してください。</p>

4. 家族等に対する支援

(1)家族への支援

No.	小項目	設問	評価の着眼点
24	家族(親族を含む)への支援	<p>利用者と家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 家庭訪問や親との面接を通じて家族へ働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 入所後も、家族と自立支援計画について確認する機会を定期的に設けている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 面接、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族の関わりの適切さを確かめている</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 施設と家族との間に信頼関係を構築するよう努めている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 子どもが家庭との交流を望む場合、積極的に支援している</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設では、子どもに対する愛着が芽生え、家庭での養育が可能となるよう親子関係の継続や修復に向けた支援が行われます。施設入所後も養育計画について家族と話し合う機会を設けたり、子どもの日常生活の様子を定期的に知らせるなど、家族との再統合、家庭復帰を意識した支援が求められます。</p> <p>この設問は、利用者と家族等との関係調整や家族からの相談に対して施設がどのように取り組んでいるかを評価するものです。</p>

(2)親子関係等の継続・回避等

No.	小項目	設問	評価の着眼点
25	親子関係の調整	<p>保護者に対して、子どもへの愛着関係、養育意欲の形成を援助していますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 子どもへの愛着が形成できるように面会や外泊を通して保護者に養育に関わってもらっている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 保護者の面会が定期的になるよう、さまざまな方法で働きかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 子どもや保護者の状況を考慮して、子どもにも保護者にも無理がないよう面会や外泊を計画している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 虐待等を受けていた子どもについては、会議での検討や児童相談所との協議を行い、面会、外出、一時帰宅を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 親子が必要な期間、一緒に過ごせるような設備を提供することができる</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>施設では、子どもと保護者の関係づくりや保護者の養育意欲形成のために、面会や外出、一時期帰宅などを計画的に行います。</p> <p>その際、家族等との交流の乏しい子どもに対する配慮や養育意欲が弱い保護者への対応、虐待等を受けていた子どもの家庭への配慮など、子どもや家庭に応じた個別の対応が求められます。</p> <p>この設問は、保護者と子どもが愛着関係を築くための施設の取り組み、保護者の養育意欲形成のための取り組みについて評価するものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
26	必要に応じた心理的支援(サービス)	<p>心理的なケアが必要な家族に対して、心理的な支援(サービス)を行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 親への支援も視野に入れた自立支援計画と課題解決に向けた心理支援プログラムが作成されている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 親への支援は、親子関係の構築、家族再統合、家庭復帰を含む総合的な内容となっている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 心理職を配置し、子どもにも親にも心理的な援助が行える体制がある</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 虐待経験のある保護者の場合は、個々の状態に応じて対応している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 保護者からの要請や必要に応じて、子育て方法について助言を行っている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>心理的なケアが必要な利用者が増加する傾向にありますが、施設では、子ども本人だけではなく保護者に対する支援も視野に入れた支援を検討する必要があります。</p> <p>たとえば、親子関係の構築、家族との再統合、家庭復帰などは、子どもと保護者の両方に働きかける必要があることから、自立支援計画についても、子どもからの視点だけでなく、総合的な状況判断のもとで策定することが求められます。</p> <p>この設問は、心理的なケアが必要な家族への支援について、施設の具体的な取り組みについて問うものです。</p>

No.	小項目	設問	評価の着眼点
27	強引な取引への対応	<p>保護者等からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保できる体制がありますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 強制引き取りへの対応について、職員に周知徹底している</p> <p><input type="checkbox"/> ② 保護者からの強引な引き取りの可能性がある子どもについては、あらかじめ対応を決めている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 引き取りの可否について、児童相談所と連絡を取り協議している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 周囲の子どもへの影響を配慮して対応している</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 強制引き取りへの対応は、子どもの心理面にダメージを与えないよう配慮されたものとなっている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合には、あらかじめその際の対応について、職員間で検討し、統一した対応が取られるよう周知徹底しておくことが重要です。</p> <p>そのうえで、児童相談所との連携や緊急事態に備えて警察とも連携することも必要となります。</p> <p>この設問は、保護者からの強引な引き取りがあった場合の対応について施設の取り組みについて評価するものです。</p>

5. 専門性の向上・地域とのつながり

(1)地域とのつながり

No.	小項目	設問	評価の着眼点
28	施設機能の地域還元	<p>施設の持つ機能を地域に還元する取り組みを行っていますか。</p> <p>☆<input type="checkbox"/> ① 施設内の集会室や庭などを、地域の児童関係団体または住民が利用を希望した場合は、利用できるようにしている</p> <p><input type="checkbox"/> ② 施設で実施している活動の中で、参加対象を限定しないものについては、積極的に受け入れを行っている</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 地域の求めに応じて、職員を講師として派遣している</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 施設が行事を行う際には、地域住民にも広く参加を呼びかけている</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤ 清掃活動に参加したり、行事を準備段階から手伝うなど、積極的に地域住民と一緒に活動する機会を設けている</p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>「福祉施設は、地域の財産」という考え方があります。そこに働く職員の持つ専門知識や施設設備は、地域にも開かれ還元されることが求められるようになってきています。</p> <p>この設問は、施設のもつ機能を地域にどれだけ開いているか、設備及び活動メニューの開放、人材面での協力、行事を通しての交流という面から評価するものです。</p>